

羽村のあゆみ

■西多摩村から羽村市へ

明治22年に羽村、五ノ神村、川崎村が合併し、現在の羽村市の前身「西多摩村」が誕生。明治末期から昭和初期に養蚕業でその名を全国に高めました。

昭和31年の町制施行で羽村町となり、土地区画整理事業などを推進し、純農村であったまちは、職住近接の近代都市へと発展を遂げました。

平成3年に市制を施行し、現在の「羽村市」が誕生しました。



▲市制施行



▲駅からバスに乗り込む通勤の様子 (昭和43年ごろ)

■市制施行を契機にさらなる発展

福祉や教育をはじめ、市制施行を契機に市として新たに担うこととなった役割を着実に果たし、自立した都市としての基盤を築いてきました。

平成14年にスタートした第四次長期総合計画では「ひとに心 まちに風 いきいき生活・しあわせ実感都市はむら」を将来像に据え、「自立と連携」を基本理念に、いきいきと健やかに暮らせるまちづくりを進めました。

■そして今、成熟した都市として

20周年という歳月を人に例えれば、成人として新たな一歩を踏み出す年齢にあたります。市民の皆様と、ともに歩いてきましたこれまでの道のりを振り返るため、羽村市の20年間の主な出来事を年表としてまとめました。

この20年は、こうしたまちづくりと行政サービスの向上に取り組み、自立した都市として成長してきた時期であるといえます。

今後は、市制施行20周年を契機に、これまで築いてきた歴史の上に立ち、さまざまな課題にチャレンジしながら、成熟した都市として、さらなる飛躍を目指していきます。



平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
- 第四次羽村市長期総合計画策定 - 新しい農産物直売所がオープン - 羽村第二中学校・第三中学校で二期制を実施 - ごみの戸別収集・一部有料化	- 市役所の土・日窓口開庁始まる - 羽村駅西口土地区画整理事業 事業計画決定 - 玉川上水が国の史跡に指定される⑤ - 第1回風のおわら開催 - 羽村駅および小作駅周辺を対象に市民生活安全パトロールを実施	- 市内すべての小・中学校で二期制を実施 - 高度浄水施設が完成し、より良質な水道水が供給される - 都立羽村高校と「学校外の学修」協定を締結 - 羽村市捨て看板防止条例施行 - 小・中学生に防犯ブザーの貸与を開始	- 羽村市弓道場オープン - 指定管理者制度による施設の管理運営を開始 - コミュニティバス「はむらん」運行開始⑥ - 羽村市文化協会が発足 - 神奈川県南足柄市と災害時相互応援協定を締結	- 羽村市生涯学習センターゆとりぎ開館⑦ 「はむら健康の日」事業始まる	- 羽村駅西口駅舎が完成 - ペットボトル水「水はむら」販売開始	- はむら総合型スポーツクラブ「はむすぽ」誕生 - 市民活動ボランティアセンターはむら開設 - 羽村市農業団体協議会と「災害時における農産物等の供給及び農地の使用に関する協定」を締結 - 羽村市障害者就労支援センター「エール」開設	- 羽村にぎわい商品券第1弾の販売 - 都市計画道路3・4・16号線立体交差（羽加美栄立体交差）の開通⑧ - 社会福祉法人そよかぜ「ひばり園」移転開園	- 公立福生病院新病院フルオープン - 小作駅東口に市民パトロールセンター開設 - 羽村市と杏林大学との連携に関する協定の締結 - 羽村駅西口駅前周辺街区 道路など築造工事を開始	- 水道事業50周年記念式典・記念事業開催 - 羽村第三中学校区の小・中学校で小中一貫教育を実施 - 市制施行20周年



⑧羽加美栄立体交差



⑦ゆとりぎ



⑥はむらん



⑤玉川上水

平成22年度決算報告

平成22年度は「第四次羽村市長期総合計画」後期基本計画の実現に向けて、予算の適正かつ効果的・効率的な執行に努めました。

財政状況が一層厳しさを増す中で、「第1次・第2次の緊急経済財政対策」を講じ、より安定的で健全な財政運営が図れるよう、さらに踏み込んだ経常的経費の削減、新たな歳入の確保、事務事業全般の見直しなどに取り組んだ結果、平成22年度の予算に定めた事業を順調に執行することができました。

問合せ 財政課財政担当

平成22年度の主な事業

平成22年度は、次のような事業を行いました。

総務費：

庁舎省エネ改修事業、第五次長期総合計画策定事業など

民生費：

子ども手当支給事業、私立保育園施設整備費補助事業、栄第二児童クラブ設置事業、生活保護費など

衛生費：
ヒブワクチン等予防接種事業、住宅太陽光発電システム設置費助成金など

労働・農林・商工費：
無公害農業推進事業、市内共通商品券発行事業、中小企業振興資金利子補給金、商工会補助金など

土木費：
市道第201号線道路改修事業、堰下橋塗装及び舗装事業、稲荷緑地用地購入事業など

消防費：
常備消防委託金、第二分団消防車購入、全国瞬時警報システム整備事業など

教育費：
松林小学校校庭整備・芝生化事業、小中一貫教育推進事業、生涯学習基本計画策定事業など

一般会計歳入

歳入総額は、205億5794万円で、前年度に比べて1億2962万円（0.6%）の減となりました。

国庫支出金、都支出金や地方交付税などが増となったものの、市税、繰入金や繰越金などが減となったことなどから、前年度と比較して減少しました。

主要財源である市税は、101億7548万円で、前年度と比較して1億3259万円（1.3%）の減となりました。固定資産税は新築家屋の増加や一部企業で設備投資が行われたことから、1億5670万円（3.2%）の増となりましたが、市民税個人分が、景気低迷による個人所得の減などにより3億5075万円（9.5%）の大幅な減となりました。歳入全体に占める市税の割合は49.5%で、前年度より0.3ポイント下回るものとなりました。

繰入金は2億9901万円で、対前年度比で12億96万円（80.1%）の減となりました。この大幅な減は財政調整基金について、第1次・第2次の「緊急経済財政対策」に基づき、歳入の確保、経常的経費の削減などに努めた結果、平成22年度予算において繰り入れた分を全額繰り戻すことができたことなどによるものです。

（単位：千円・%）

▼歳入決算額前年度比較

項目	平成22年度	平成21年度	差引き	伸び率
市税	10,175,477	10,308,063	▲132,586	▲1.3
地方交付税	456,630	100,667	355,963	353.6
地方譲与税などの交付金	1,326,501	1,329,499	▲2,998	▲0.2
保育料などの負担金	203,639	213,421	▲9,782	▲4.6
使用料および手数料	382,050	363,275	18,775	5.2
国庫支出金	2,638,623	2,034,393	604,230	29.7
都支出金	3,020,217	2,510,512	509,705	20.3
繰越金・繰入金・諸収入など	1,454,800	3,147,728	▲1,692,928	▲53.8
市債	900,000	680,000	220,000	32.4
歳入合計	20,557,937	20,687,558	▲129,621	▲0.6

